

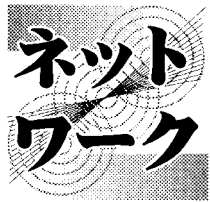
2009年3月4日

いま琉球大学は危機にひんしている。琉球大学は四月の新学期から、外国語教育を大きく変更する。だがそのカリキュラム変更は、

単位の「水増し」的読み替えによる時間数の大幅な縮減という前代未聞の改悪案である。改悪案に対して、六千人近い反対署名を含め学内外から大きな批判が提示されている。だが、琉球大学は、こうした声に応えていない。

例えば二月二十七日付本紙の論壇において、この「改革」案が外国語教育の向上を目指すものだという新里里春琉大副学長による説明がなされているが、これなど詭弁を弄した愚かな文章というべきである。

外国語教育向上のために授業時間を半減するといった話を聞いたのだが納得するだろうか



あす琉大で公開討論会

外国語授業の縮減問う

か。そもそも大学当局者が、非常勤講師の予算削減を狙って今回の改悪案を持ち出したことは、幾多の資料からも明らかである。だが、琉球大学は毎年四億円以上にも上る「目的積立金」を計上しており、今回の改悪案には経済的根拠もないのである。もし今回の「改革」案が正しいというなら、琉球大学は公開説明会をすべきである。しかし、大学はこれを拒んでいる。

こうした事情を踏まえ五日(木)午後七時から、琉大法学部114教室で公開討論会を開きます。関心を持たれているすべての方に無条件に開かれた集いです。気軽にご参加ください。心より歓迎します。問い合わせは、☎098(895)8305。

(琉球大学法文学部准教授、新城郁夫)